

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財) 全国地域情報化推進協会 御中 報告日 2019年9月2日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	千葉市	代表者名	熊谷 俊人
担当者部署	総合政策局	連絡先電話番号	043-245-5346
担当者役職		担当者氏名	
住所	260-8722 千葉県千葉市中央区千葉港1番1号		
連絡先E-mail			

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	石山 アンジュ
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	講演内にてミニワークショップを開催いただき、職員が能動的に自治体業務や地域課題に資するシェアリングエコノミーの活用策を考える機会を持てた点。当該ワークショップにて出された意見には施策反映の実現可能性の高いものも見られ、当該講演を契機にシェアリングエコノミーの浸透が進むことを大いに期待できるものであった。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2019年7月24日	10時00分	11時30分		90
3-2. 派遣場所	会場名	千葉市総合保険医療センター5階大会議室		最寄駅	千葉みなと
	所在地	千葉市美浜区幸町1-3-9			
	最寄駅からの交通手段	徒歩			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	職員	97人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実績に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	・シェアリングエコノミー推進事業を通じ、市民へのシェアリングエコノミー普及促進を図る一方で、庁内におけるシェアリングエコノミーへの理解が進んでいない。 ・シェアリングエコノミー推進事業をより効果的に遂行するため、また、庁内でのシェアリングエコノミー活用事業を促すためにも、職員へのシェアリングエコノミー普及啓発が必要である。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	職員のシェアリングエコノミーに対する理解を深めるとともに、庁内におけるシェアリングエコノミー活用事業を創出する。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	「シェアリングエコノミーが変える今後の社会」、「自治体業務や地域課題における具体的な事例を踏まえたシェアリングエコノミー活用の可能性」をテーマとした講演	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	人員や予算増が見込めない中で、シェアリングエコノミーの活用が今後の施策展開における鍵になるものであることを職員に意識付けすることができた。また、既に他自治体にて展開されているシェアリングエコノミーを活用した地域課題解決事例をご紹介いただき、シェアリングエコノミーが自治体にとっても親和性があるものだとして認識することができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	シェアリングエコノミーを活用するアイデア創出の契機にはなったものの、具体的に施策に落とし込む手法等、より実務的な部分の理解を得る必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 (アンケート1)講演会の満足度(よく理解できた:60% 普通:40% 不満:0%) (アンケート2)シェアリングエコノミーへの理解度(よく理解できた:87% 変わらない:12% よく理解できなかった:1%) (アンケート3)講演会に対する感想(自由記述) 総評:シェアリングエコノミーを施策に活用できる可能性を実感できた一方で、自治体がシェアリングエコノミーを施策に活用していくためには、(国全体の議論も含め)その安心・安全性をどのように担保すべきか検討が必要である。 (抜粋) ■シェアリングエコノミーの可能性を感じられ、大いに興味を持ってました。現在千葉市では観光振興の手段として活用しているようですが、共助による子どもの教育機会の創出などにも使えるのではないかと考えました。 ■シェアエコを運用するために課題を整理し、ルール化を行うのは事業によっては難しい面ありそうだが、様々な事業に活かすことができる可能性を感じた。個人的には公務員の日常生活で、石山さんのような生き方は難しそうだなと思ってしまったが、一部でも考え方を取り入れたりと柔軟に対応していくことが大事だと感じました。 ■シェアリングエコノミーがセーフティネットとなり得るということが印象に残った。一方で、シェアコミュニティに参加できない性質の人たちがいることも念頭に置くべきであり、シェアを前提とするのではなくあくまで一手段であることを、行政は忘れてはいけないと感じた。 ■シェアリングエコノミーは、一般的に性善説で成り立っているもので、保険がきくとは言えないものの、問題が起きた時の賠償問題や、新品のものを使いたいという人はそもそもシェアという発想は受け入れられないので、ニースの面でも万人受けするのではなく、課題はあると感じました。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
事業の最終的な目指す姿	シェアリングエコノミー推進事業と連動し、庁内におけるシェアリングエコノミー活用事業を創出する。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

